


産業遺産の保全と活用に関する調査

整理番号	⑳	名称	JR 小樽駅プラットホーム JR 小樽駅本屋	分類	鉄道関連施設
写 真		所在地	小樽市稲穂 2-22-15	建築年等	1934 年（昭和 9 年）
		構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 2 階建	設計者	札幌鉄道局工務課？
		見学可否	可	施工者	
		文化財等の登録・指定内容	2006（平成 18）年登録有形文化財（建造物）		
		アクセス方法	JR 函館本線小樽駅		
解 説	<p>【JR 小樽駅プラットホーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本屋背面の 2 階レベルに築かれる。幅員 7.7m、長 118m 規模で、鋼製レールを用いて上屋を架ける。高架線式駅舎に似た動線計画を有し、本屋ホールから連なる地下通路とは階段で連絡し、北西寄りにも山側プラットホームとの間に荷物用の地下通路を設ける。 <p>【JR 小樽駅本屋】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小樽港に正面を向けて建つ。昭和初期の RC 造駅舎の好事例で、中央にトップライト付きの吹抜けのホールを設け、左右を 2 階建部とし、両端を平屋建部とする。傾斜地を利用したホール、地下道及び 2 階レベルのプラットホームの構成にも特色がある。 				
施設の現存状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 無（解体年）				
所 有 者	北海道旅客鉄道株式会社		管 理 者	北海道旅客鉄道株式会社	
施設の管理方法 (いずれかに○)	1 市町村自ら管理 2 市町村から民間会社に指定管理・委託により管理 <input checked="" type="checkbox"/> 3 所有者が管理 4 その他 ()		施設の管理状況 (複数回答可)	1 市町村職員が行う草刈り・除雪等 2 屋根の防水工事など、必要に応じて修繕 3 特に何もしていない <input checked="" type="checkbox"/> 4 その他 (現役の駅として管理されている。)	
施設の活用方法 (複数回答可)	1 教育施設として活用 2 観光施設として活用 3 一般開放していない <input checked="" type="checkbox"/> 4 その他 (現役の駅として使用されている。)		自由記載：		
施設の今後の活用方法について (複数回答可)	1 文化財等へ登録・指定（国・市）※注 1 2 施設のリニューアル <input checked="" type="checkbox"/> 3 現状維持（維持補修を含む） <input checked="" type="checkbox"/> 4 日本遺産の認定 5 世界遺産登録 6 解体撤去 7 未定 8 その他（ ）		自由記載：		
他地域との連携した取組について 「炭・鉄・港」など (いずれかに○)	1 すでに他地域と連携している（具体的な内容： ） 2 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 3 現時点では連携実施していない 4 その他（具体的な内容： ）				
施設を活用する上での課題 (複数回答可)	1 知名度が不足している 2 魅力的な展示方法がわからない 3 施設を解説できる人材が高齢化し、不足している 4 施設を補足説明する写真や資料等がない 5 施設が老朽化しており、修繕に多額の費用がかかる <input checked="" type="checkbox"/> 6 その他（具体的な内容：現役の鉄道施設のため制約がある）				
施設の画像の有無 (該当するものに○)	静止画	<input checked="" type="checkbox"/> 有：写真 ネガフィルム デジタル写真 デジタルデータ その他（ ）			無
	動 画	有：8 ミリフィルム ビデオ DVD その他（ ）			無
産業遺産の保全と活用について	現役の駅舎として使用されていることから、JR がシステム更新を行う際に文化財としての価値を損なわないような配慮が求められる。				

注 1 「文化財等の登録・指定等」には景観法に基づく景観重要建造物の指定や、各市独自の保存制度も含む。

産業遺産の保全と活用に関する調査

整理番号	②		名称	旧室蘭駅舎		分類	鉄鋼関連施設		
写 真		所在地	室蘭市海岸町1丁目5番1号		建築年等	1912年(明治45年)			
		構造	木造2階建, 鉄板葺, 建築面積 686 m ² 1棟		設計者	(不明)			
		見学可否	見学可能		施工者	(不明)			
		文化財等の登録・指定内容	1999(平成11)年登録有形文化財 2010(平成22)年準鉄道記念物(JR北海道)						
		アクセス方法	JR室蘭駅から徒歩5分						
解 説	<ul style="list-style-type: none"> ・1912(明治45)年に建てられた旧室蘭駅舎は、道内の駅舎の中では最古の木造建築物です。建築様式は寄棟造りで、明治の洋風建築の面影を残す屋根や白壁づくりの外観、外回りは入母屋風で「がんぎ」と呼ばれるアーケード洋式になっており、それらを保存した全国でも珍しい建物です。 ・室蘭本線の終着駅としてつくられた木造2階建、煙突付の比較的に規模の大きい駅舎。細部の意匠は、洋風で仕上げられており、軒下の持ち送り、屋根上のドーマー窓、方杖をもったアーケードの軒支柱、1階の縦長の窓等に特徴があります。 ・3代目の室蘭駅舎として、1997(平成9)年9月30日まで活用され、1998(平成10)年4月1日にJR北海道から室蘭市に譲渡された。 ・現在は室蘭観光協会の事務所として使用されており、ホールは展示などの会場として一般に開放されています。 								
施設の現存状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (解体年)								
所 有 者	室蘭市		管 理 者	一般社団法人 室蘭観光協会					
施設の管理方法 (いずれかに○)	<input type="checkbox"/> 1 市町村自ら管理 <input checked="" type="checkbox"/> 2 市町村から民間会社に指定管理・委託により管理 <input type="checkbox"/> 3 所有者が管理 <input type="checkbox"/> 4 その他 ()		施設の管理状況 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 1 市町村職員が行う草刈り・除雪等 <input checked="" type="checkbox"/> 2 屋根の防水工事など、必要に応じて修繕 <input type="checkbox"/> 3 特に何もしていない <input type="checkbox"/> 4 その他 ()					
施設の活用方法 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 1 教育施設として活用 <input checked="" type="checkbox"/> 2 観光施設として活用 <input type="checkbox"/> 3 一般開放していない <input type="checkbox"/> 4 その他 ()		自由記載:						
施設の今後の活用方法について (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 1 文化財等へ登録・指定(国・市) ※注1 <input type="checkbox"/> 2 施設のリニューアル <input checked="" type="checkbox"/> 3 現状維持(維持補修を含む) <input type="checkbox"/> 4 日本遺産の認定 <input type="checkbox"/> 5 世界遺産登録 <input type="checkbox"/> 6 解体撤去 <input type="checkbox"/> 7 未定 <input type="checkbox"/> 8 その他()		自由記載:						
他地域との連携した取組について 「炭・鉄・港」など (いずれかに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 すでに他地域と連携している(具体的な内容:空知・小樽地域との「炭・鉄・港」プロジェクトに参画) <input type="checkbox"/> 2 検討中 <input type="checkbox"/> 3 現時点では連携実施していない <input type="checkbox"/> 4 その他(具体的な内容:)								
施設を活用する上での課題 (複数回答可)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 知名度が不足している <input type="checkbox"/> 2 魅力的な展示方法がわからない <input type="checkbox"/> 3 施設を解説できる人材が高齢化し、不足している <input type="checkbox"/> 4 施設を補足説明する写真や資料等がない <input checked="" type="checkbox"/> 5 施設が老朽化しており、修繕に多額の費用がかかる <input type="checkbox"/> 6 その他(具体的な内容:)								
施設の画像の有無 (該当するものに○)	静止画	<input checked="" type="checkbox"/> 有: <input checked="" type="checkbox"/> 写真 <input type="checkbox"/> ネガフィルム <input type="checkbox"/> デジタル写真 <input checked="" type="checkbox"/> デジタルデータ その他()						無	
	動画	有: <input type="checkbox"/> 8ミリフィルム <input type="checkbox"/> ビデオ <input type="checkbox"/> DVD その他()						<input checked="" type="checkbox"/> 無	
産業遺産の保全と活用について	*産業遺産の保全と活用についての質問や意見等があれば、記載してください。								

注1 「文化財等の登録・指定等」には景観法に基づく景観重要建造物の指定や、各市独自の保存制度も含む。

産業遺産の活用に関する調査

整理番号	②		名称	旧発電所	分類	鉄鋼関連施設	
写 真		所在地	室蘭市茶津4番地	建築年等	1909(明治42)年		
		構造	レンガ造	設計者			
		見学可否	非公開	施工者	日本製鋼所		
		文化財等の登録・指定内容	2007(平成19)年近代化産業遺産群				
		アクセス方法	JR母恋駅から徒歩約5分で正門入口から入構				
解 説	<p>・日本製鋼所室蘭製作所の旧発電所は、1909(明治42)年に建設された日本製鋼所の火力発電施設で、合弁先の英国から輸入した発電機3機とボイラー20基が格納されていた。</p> <p>建物は煉瓦作りで発電所及び汽缶室部からなり、床面積は3,241㎡</p> <p>発電所部：英国製で1,000Kwの直流発電機が3機、200Kwの直流発電機が1機</p> <p>汽缶室部：英国製の高圧・水管式汽缶が20基</p> <p>1928(昭和3)年より電力会社から初めて電力の供給を受け、自家発電と併用を開始。</p> <p>その後、1938(昭和13)年には、工場の電力は全て電力会社から供給を受けるようになり、この自家発電所は予備となり1961(昭和36)年に廃止となりました。現在は多目的施設として活用されています。</p>						
施設の現存状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 () 無 (解体年)						
所 有 者			管 理 者				
施設の管理方法 (いずれかに○)	1 市町村自ら管理 2 市町村から民間会社に指定管理・委託により管理 3 所有者が管理○ 4 その他 ()		施設の管理状況 (複数回答可)		1 市町村職員が行う草刈り・除雪等 2 屋根の防水工事など、必要に応じて修繕 3 特に何もしていない○ 4 その他 ()		
施設の活用方法 (複数回答可)	1 教育施設として活用 2 観光施設として活用 3 一般開放していない○ 4 その他 ()		自由記載：一般公開は原則考えていませんが、会社記念行事(創立記念)などの時に一般公開(見学会)を検討することはあります。				
施設の今後の活用方法について (複数回答可)	1 文化財等へ登録・指定(国・市) ※注1 2 施設のリニューアル 3 現状維持(維持補修を含む)○ 4 日本遺産の認定 5 世界遺産登録 6 解体撤去 7 未定 8 その他 ()		自由記載：現状のまま、会社の施設として活用することを考えています 現在でも「歴史的建造物の研究会」などから依頼があればその都度、問合せ先と協議して見学対応する場合があります。				
他地域との連携した取組について 「炭・鉄・港」など (いずれかに○)	1 すでに他地域と連携している(具体的な内容：) 2 検討中 3 現時点では連携実施していない○ 4 その他(具体的な内容：)						
施設を活用する上での課題 (複数回答可)	1 知名度が不足している 2 魅力的な展示方法がわからない 3 施設を解説できる人材が高齢化し、不足している 4 施設を補足説明する写真や資料等がない 5 施設が老朽化しており、修繕に多額の費用がかかる○ 6 その他(具体的な内容：会社施設としてのみ利用しており一般活用の予定はありません)						
施設の画像の有無 (該当するものに○)	静止画	有：写 真 ネガフィルム デジタル写真○ デジタルデータ その他 ()				無	
	動 画	有：8ミリフィルム ビデオ DVD その他 ()				無	
産業遺産の保全と活用について	*産業遺産の保全と活用についての質問や意見等があれば、記載してください。						


注1 「文化財等の登録・指定等」には景観法に基づく景観重要建造物の指定や、各市独自の保存制度も含む。

産業遺産の保全と活用に関する調査

整理番号	⑳		名称	瑞泉閣	分類	鉄鋼関連施設	
写 真		所在地	室蘭市茶津町 4	建築年等	1911(明治 44)年		
		構造	木造平家	設計者			
		見学可否	非公開	施工者	大倉組 (大成建設)		
		文化財等の登録・指定内容	2007 (平成 19) 年近代化産業遺産群				
		アクセス方法	母恋駅から徒歩で約 10 分、茶津ゲートから入館				
解 説	<ul style="list-style-type: none"> 瑞泉閣は 1911 (明治 44) 年 9 月、大正天皇が皇太子時代に北海道行啓の際、日本製鋼所室蘭製作所を御視察の宿泊所として建設されました。 建物は和洋折衷で洋館 199 m²、和館 303 m²からなり、外観の無骨さとは対照的に、内部は華麗な装飾であふれています。 2007 (平成 19) 年に経済産業省の「近代化産業遺産」に認定されています。翌年には改修工事を終え、外壁、屋根瓦など建設当時の様子を可能な限り再現しており、現在では同製作所の迎賓館として使用されています。 						
施設の現存状況	有○ 無 (解体年)						
所 有 者			管 理 者				
施設の管理方法 (いずれかに○)	1 市町村自ら管理 2 市町村から民間会社に指定管理・委託により管理 3 所有者が管理○ 4 その他 ()		施設の管理状況 (複数回答可)		1 市町村職員が行う草刈り・除雪等 2 屋根の防水工事など、必要に応じて修繕○ 3 特に何もしていない 4 その他 ()		
施設の活用方法 (複数回答可)	1 教育施設として活用 2 観光施設として活用 3 一般開放していない○ 4 その他 ()		自由記載：一般公開は原則考えていませんが、会社記念行事（創立記念）などの時に一般公開（見学会）を検討することはあります。				
施設の今後の活用方法について (複数回答可)	1 文化財等へ登録・指定 (国・市) ※注 1 2 施設のリニューアル 3 現状維持 (維持補修を含む) ○ 4 日本遺産の認定 5 世界遺産登録 6 解体撤去 7 未定 8 その他 ()		自由記載：現状のまま、会社の迎賓館として活用することを考えています 現在でも「歴史的建造物の研究会」などから依頼があればその都度、問合せ先と協議して見学対応する場合があります。				
他地域との連携した取組について 「炭・鉄・港」など (いずれかに○)	1 すでに他地域と連携している (具体的な内容：) 2 検討中 3 現時点では連携実施していない○ 4 その他 (具体的な内容：)						
施設を活用する上での課題 (複数回答可)	1 知名度が不足している 2 魅力的な展示方法がわからない 3 施設を解説できる人材が高齢化し、不足している 4 施設を補足説明する写真や資料等がない 5 施設が老朽化しており、修繕に多額の費用がかかる 6 その他 (具体的な内容：会社施設としてのみ利用しており一般活用の予定はありません)						
施設の画像の有無 (該当するものに○)	静止画	有：写 真 ネガフィルム デジタル写真○ デジタルデータ その他 ()				無	
	動 画	有：8ミリフィルム ビデオ DVD その他 ()				無	
産業遺産の保全と活用について	*産業遺産の保全と活用についての質問や意見等があれば、記載してください。						

注1 「文化財等の登録・指定等」には景観法に基づく景観重要建造物の指定や、各市独自の保存制度も含む。

産業遺産の保全と活用に関する調査

整理番号	⑭		名称	エレガ館（旧日本製鐵中島会館）		
写 真		所在地	室蘭市中島本町1丁目5-8		分類	鉄鋼関連施設
		構造	木造2階建		建築年等	1939（昭和14）年
		見学可否	否		設計者	佐藤功一
		文化財等の登録・指定内容	2007（平成19）年近代化産業遺産群			
		アクセス方法				
解 説	<p>1939（昭和14）年、当時の日本製鐵(株)西製鐵所中島倶楽部（社員倶楽部/集会所、図書館、会食場）として、早稲田大学大隅講堂の設計者である佐藤功一氏の設計により建設された。</p> <p>1998（昭和63）年、施設の老朽化に伴うリニューアルを施し、花と工芸の館「エレガ」として再生、地域文化の発信拠点としての役割を担ってきた。</p> <p>2012（平成24）年、施設の老朽化に伴い閉館、現在、同施設は立ち入り禁止措置を講じている。</p>					
施設の現存状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 無（解体年_____）					
所 有 者	新日鐵住金(株)室蘭製鐵所		管 理 者	新日鐵住金(株)室蘭製鐵所		
施設の管理方法 (いずれかに○)	1 市町村自ら管理 2 市町村から民間会社に指定管理・委託により管理 <input checked="" type="radio"/> 3 所有者が管理 4 その他 (_____)		施設の管理状況 (複数回答可)	1 市町村職員が行う草刈り・除雪等 2 屋根の防水工事など、必要に応じて修繕 3 特に何もしていない <input checked="" type="radio"/> 4 その他 (立ち入り禁止、柵設置、電気・水道等遮断)		
施設の活用方法 (複数回答可)	1 教育施設として活用 2 観光施設として活用 3 一般開放していない <input checked="" type="radio"/> 4 その他 (同施設の活用は考えていない)		自由記載： 同施設は、耐震構造上、現状では使用できない事から、活用の予定は無い。			
施設の今後の活用方法について (複数回答可)	1 文化財等へ登録・指定（国・市）※注1 2 施設のリニューアル 3 現状維持（維持補修を含む） 4 日本遺産の認定 5 世界遺産登録 6 解体撤去 7 未定 8 その他（_____）		自由記載：			
他地域との連携した取組について 「炭・鉄・港」など (いずれかに○)	1 すでに他地域と連携している（具体的な内容：_____） 2 検討中 <input checked="" type="radio"/> 3 現時点では連携実施していない 4 その他（具体的な内容：_____）					
施設を活用する上での課題 (複数回答可)	1 知名度が不足している 2 魅力的な展示方法がわからない 3 施設を解説できる人材が高齢化し、不足している 4 施設を補足説明する写真や資料等がない <input checked="" type="radio"/> 5 施設が老朽化しており、修繕に多額の費用がかかる 6 その他（具体的な内容：_____）					
施設の画像の有無 (該当するものに○)	静止画	有： <input checked="" type="checkbox"/> 写 真 ネガフィルム デジタル写真 デジタルデータ その他（_____） 無				
	動 画	有：8ミリフィルム ビデオ DVD その他（_____） 無				
産業遺産の保全と活用について	*産業遺産の保全と活用についての質問や意見等があれば、記載してください。					

注1 「文化財等の登録・指定等」には景観法に基づく景観重要建造物の指定や、各市独自の保存制度も含む。